



佐賀大学

## 会報名称募集中

理工学部同窓会設立準備号

1998.4.1

No. 1

# 佐賀大学理工学部同窓会 設立準備委員会設立に寄せて

前山道明 (機械・46)



新春の候、佐賀大学理工学部卒業生の皆様におかれましては、ご活躍のことと思います。

昭和41年に理工学部が創設されて以来、佐賀大学理工学部は既に8,000人の同窓生を輩出し、旧文理と経済、理工の両学部で構成する楠葉同窓会の約6割を占めるに至っています。

このような状況を背景に、昨年理工学部創立30周年を迎える際に、学内の先生方有志を中心として、理工学部同窓会を設立しようとの機運が急速に高まりました。

これまで楠葉同窓会が諸先輩により非常に活発に活動がなされているが故に、先輩達は理工学部同窓会を分離独立することに袂を分かつという感情がどうしても拭いきれない様子で、最初のうちは、必ずしも賛同が得られない雰囲気がありました。

これは楠葉同窓会への思い入れや愛着が如何に強いかの現れと私自身納得できるものがあり、熱心なその姿を一面では非常に嬉しく感じていました。

度重なる話し合いのうち、来年の平成11年は教育改革により佐賀大学が生まれて50周年

の記念すべき年を迎えますので、これを機に、佐賀大学同窓会の下部組織を理工系、経済系、農学系、教育系の4学部同窓会で構成し、佐賀大学同窓会の発展に繋げようとの暖かいご理解を得られるようになりました。

佐賀大学理工学部同窓会を組織し、佐賀大学同窓会の事業の発展を支えるとともに、理工学部系独自の同窓会活動や母校理工学部の支援活動を幅広く行えることは大きな意義があると思います。

そこで、理工学部同窓会を設立するにあたり、同窓会の事業計画ほか、懸案事項を整理するため、学内におられる同窓の先生方および同窓生の有志で理工学部同窓会設立準備委員会を発足することとなりました。

これから来年の7月まで1年余り、私たち設立準備委員一同は微力ではありますが、皆様方のご意見を拝聴しながら、佐賀大学理工学部同窓会の発足に向けて全力で取り組んで参る所存です、何卒皆様のご協力、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、ご挨拶と致します。



# 理工学部同窓会設立 準備委員会の発足を祝す



理工学部長

上原 春 男

この度、楠葉同窓会に長年にわたってお世話になった理工学部の同窓生が、独立して理工学部同窓会を設立することになったということをお聞きしました。心からお祝い申し上げます。楠葉同窓会には、旧文理学部時代から引き続いて佐賀大学の発展の要所要所で、絶大な支援をいただきましたので、同窓生の皆様には親しい人が多く、今後とも佐賀大学の同窓会でお会い出来ることを楽しみにしております。

理工学部も昭和41年4月発足後、すでに30周年を過ぎ、去年の9月27日には、盛大な30周年記念式典を行うことができました。その際には、楠葉同窓会や理工学部の同窓生の皆様には絶大なご支援をたまわり、お陰様で、式典や祝賀会にご臨席いただいた多くの人々からおほめのことばをいただきました。これも同窓生の皆様のご支援のたまものと思っております。改めて、厚くお礼申し上げます。

理工学部は昭和41年4月1日には、数学科、物理学科、化学科、機械工学科、電気工学科の5学科で、入学定員はわずか170人でした。その後、関係各位の努力によって、工業化学科、土木工学科、生産機械工学科、電子工学科、建設工学科、情報科学科の6学科が設置され、入学定員も510人となりました。

そして、平成9年4月1日には、21世紀の科学技術の発展の動向を先取りする形で、学科の改組を行いました。それで、現在では、数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科、電気電子工学科、都市工学科の7学科で入学定員も520人になっております。佐賀大学全

体の入学定員が1,190人であるので、約半分が理工学部で世話していることとなります。

理工学部では、大学院も充実をさせて来ました。昭和50年に工学系の修士課程の工学研究科が設置され、昭和58年には、理学系にも修士課程が設置され、理工学研究科となりました。

これ以降名実ともに大学になるためには、博士課程を設置する必要があるということで学部一丸となって博士コースの設置へ向けて動きました。その結果、平成3年4月1日に新制大学としては、早い方で理系と工系全部に博士号を出せる工学系研究科が設置されました。平成7年以降毎年20人程度の博士号を出しております。

大学院の充実は、他の大学に先がけて行っておりまして、九州工業技術所との連携大学院や英語だけで講義する「英語特別コース大学院」を設置しております。

また、平成10年4月1日から学部基礎のない独立専攻「生体機能システム制御工学専攻」の設置が認められました。これは、21世紀の科学技術の担い手を育成する目的で設置されたもので、九州の大学では最初のもので

私達、理工学部にも所属する教職員は、理工学部を卒業された皆様が職場や企業で肩身の狭い思いをしないために、少しでも理工学部を発展、成長させるべく全力を投入しております。お陰様で、少しずつ理工学部も充実し、成長して来ております。

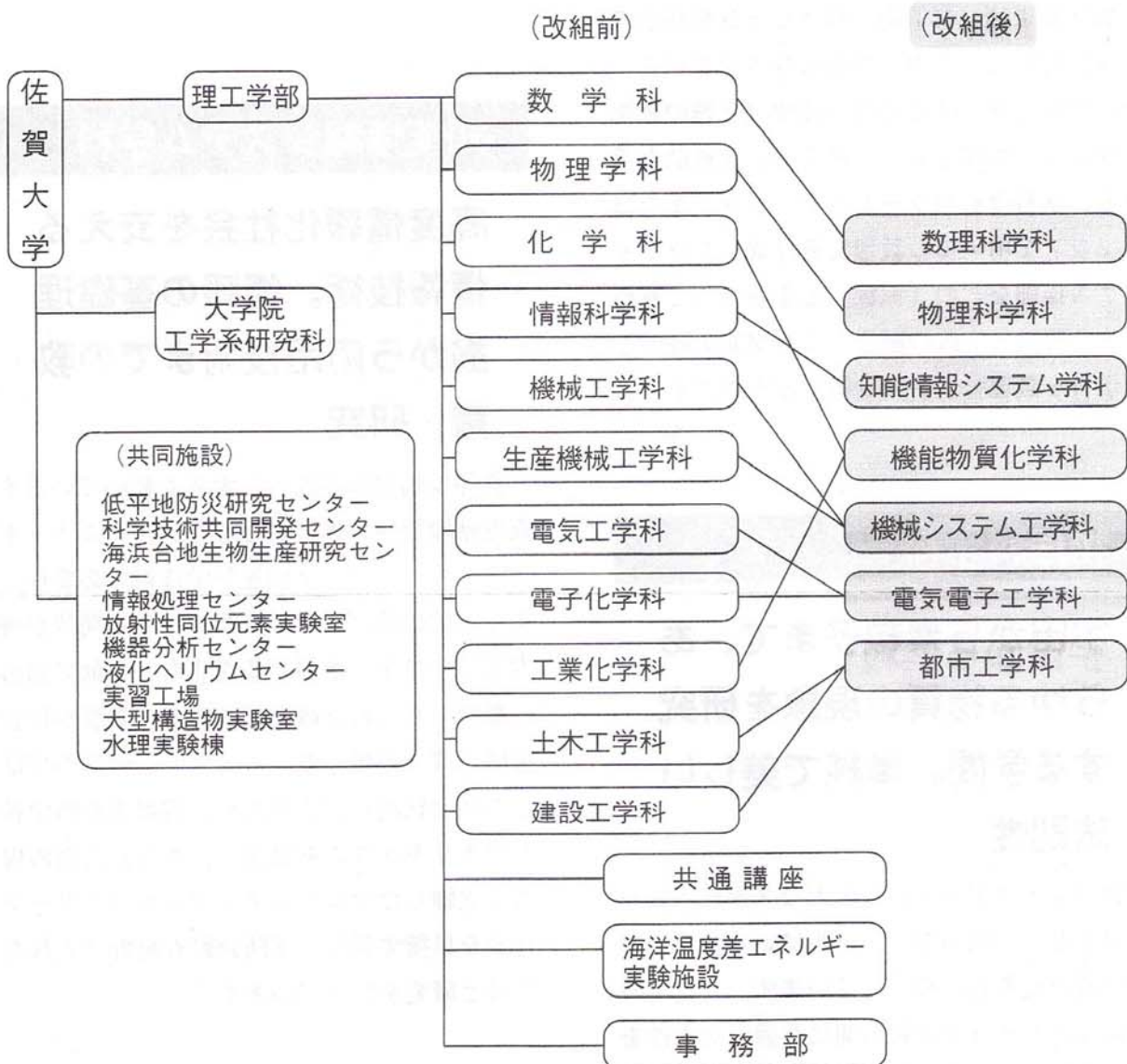
今後同窓生の皆様の一層のご支援をたまわりたく存じます。最後になりましたが、同窓生の皆様のご多幸とご健勝をお祈りいたします。

# 学 科 改 組

理工学部は、平成9年4月にこれまでの11学科50講座を7学科26大講座に改組したばかりのフレッシュな学部です。全国でもトップレベルの業績を有する教授陣を擁し、理学と工学が融合した学部の特色を最大限に発揮して、21世紀の国際化、情報化、技術の高度化と価値観の多様化に対応できる人材の育成と新しい知的創造とを目指して教育研究を行っています。

資源の少ない日本で一億以上の人が生きてゆくためには、世界から尊敬される高い文化と科学技術の振興が最重要です。多くの優れたたしかもやる気のある若者を迎え、さらに施設や設備の充実、教育研究の改善を進めることによって技術革新の時代に対応し、社会の要請に応じていきます。

学科改組後の組織図





# 各 学 科 の 動 き

## 数理科学科

### 伝統的な数学の一貫教育 および現代計算機科学の 一端を享受できる新構想 学科

数理科学科はあらゆる科学技術の基礎となる数学、並びにその応用分野である計算機科学を勉強するところです。当学科では、学生に数学およびソフト面における計算機科学の動きに対応し、その一端を享受させるべく、15名の教授陣による日頃の授業は定理の証明を支える「論理をもって考える」伝統的な手法と、学科専有のワークステーションまたはパソコンを用いての数理文書作成、グラフィックス描画などの「実験」とを並行して進めます。理論と実践の融合。これが30年続いた数学科を数理科学科に改組する所以です。

## 物理科学科

### 宇宙から素粒子まで、あ らゆる物質の現象を研究 する学問。単純で美しい 法則性

物理学とは宇宙という広大なスケールから素粒子という微小なスケールにいたるすべての物質の現象を対象としています。一見何の関係もなさそうな現象の間に共通の法則性を見つけたり、複雑な現象の中に単純で美しい

法則性を見て取る学問です。その方法には2種類あり、一つは理論的に、もう一つは実験的にそれらの法則性を確かめていきます。この両者の間には密接な関係があり、理論的な考えは実験で確かめられてはじめて正しい理論であると検証され、また新しい実験事実は正しい理論を作り上げるための基礎となります。当学科では、素粒子原子核を研究対象とする「基礎物理学」と物性や光学、地球を対象とする実験物理学の「応用物理学講座」からなり、活発な研究がなされています。

## 知能情報システム学科

### 高度情報化社会を支える 情報技術。情報の基礎理 論から応用技術までの教 育・研究

世界は情報の時代へと大きく動いています。高度情報社会の進展にともない、マルチメディア・ネットワーク関連科学技術の必要性、より人間に近づいた計算機に対する期待が増大しています。情報の基礎能力と柔軟で幅広い視野をもった上級情報技術者の需要が社会全般に渡って増しているのです。当学科では、この社会状況に応えるため、情報系専門学科コアカリキュラムを包含し、さらに人間の視点に立脚したマルチメディア・ネットワーク社会を目指す新しい学問分野も視野に入れた教育と研究を行っています。

## 機能物質化学科

### 幅広い知識を備えた科学 技術者を目指して現代社 会の化学技術の先端を担 う

資源の乏しい我が国において、物質の高機能化、高付加価値化に対する科学技術の要請はますます強くなっています。当学科は、幅広い化学的知識を備えた基礎と応用に強い化学技術者、研究者の養成を目的として、理学系の「化学科」と工学系の「工業化学科」を統合、拡大して生まれました。「物質化学」と「機能材料化学」の二つのコースで構成され、教育と研究が両コース間の密接な協力の下に行われています。

## 機械システム工学科

### すべての工業分野に不可 欠の機械技術、新製品や 先端技術の開発を支える工 学

現在の豊かな文明社会の基盤として、高度にシステム化された各種機器、例えば、様々な動力機械、ロケットなどの宇宙機械、数値制御工作機械やロボットなどの知能機械が不可欠です。当学科は、これらの先端技術の開発を根底で支える機械工学に精通した技術者および研究者の養成を目的とし、機械工学全般にわたっての教育と研究を行っています。

## 電気電子工学科

### その夢をカタチにして未 来に残そう！

今日の高度科学技術の発展は、電気・電子工学によって大きく支えられており、その役割はますます重大で、かつ拡大する方向にあります。そこで、時代に即応した電気・電子工学の基礎から応用技術まで修めた技術者・研究者の養成を目的とし、従来の電気・電子工学の学問領域に情報工学分野まで取り組んだ内容の研究教育指導を行います。

## 都市工学科

### 人と自然の調和を目指し て

都市工学科はCivil Engineering、すなわち「市民のための工学」を扱う学科です。都市工学科が対象とする学問分野は、工学の中でも最も人間生活に深く、しかも直接的に関与する学問分野であるといえます。

当学科は、社会資本整備のための建設・設計を対象とするハードウェア並びにそれらのシステムづくりを対象とするソフトウェアの両面に精通した、創造性豊かで的確な判断を持つ優秀な技術者・研究者の育成を目的としています。豊かで安全な国土の計画、開発、建設および防災に関する諸技術に加え、人間と自然との調和のとれた総合環境や社会システムなどの新たな課題に取り組んだ教育・研究を行います。



# 理工学部同窓会設立準備委員会

現在、理工学部卒業生は楠葉同窓会の会員ですが、楠葉同窓会会報「なんようNo.64」でもお知らせしましたように、佐賀大学50周年（平成11年7月）を機に、理工学部同窓会が楠葉同窓会から分離独立することになりました。平成9年9月には、理工学部同窓会設立に向けて設立準備委員会が発足しました。

第1回組織委員会もすでに開催され、理工学部同窓会は、Ⅰ理工学部の発展とともに佐賀大学の発展に寄与する、Ⅱ卒業生の支援事業を行う、Ⅲ在校生の支援事業を行う、Ⅳ理工学部や同窓生の情報を佐賀大学及び同窓生に提供する、この基本方針が打ち出されました。詳細な内容については、これから1年半掛けて、「あるべき理工学部同窓会の姿」が、活発に話し合われていくことと思います。また、広報委員会でも、早速「準備号」を発行して、平成9年度に改組された理工学部の現状を知らせることなどが決まりました。

設立準備委員会委員の任期は平成11年7月までで、委員の人数に特に制限はありません。特に、学外の卒業生の参加を歓迎します。同窓会に興味ある人は是非参加して意見交換をして下さい。また、不明な点や同窓会について意見がありましたら、手紙やファックス等で、準備委員会事務局（佐賀大学同窓会事務局兼）にお知らせ下さい。準備委員会の役割分担と委員会構成メンバーは以下の通りです。

- ・委員長（準備委員会の推進）：前山道明 [機械・46]
- ・副委員長（委員長の補佐）：中島道夫 [化学・47]、前田秀人 [土木・49]
- ・庶務（準備委員会全般の運営）：穂屋下茂 [機械・49]、堀江秋夫 [電気・51]
- ・組織（会則・事業・予算配分等の試案造り）：◎田中正和 [化学・48]、清田勝 [土木・50]、太田里美 [数学・48]、椿忠彦 [物理・53]、池上康之 [生機・61]、田中高行 [電子・61]、寺山康教 [機械・H1]、大渡啓介 [工化・02]、山崎直子 [情報・H5]
- ・広報（準備号発行、同窓生の意見の集約）：前田勤 [機械・49]、◎荒木宏之 [土木・51]、松尾浩二 [化学・61]、大津康徳 [電気・H1]、松原義継 [物理・H3]
- ・会計（準備委員会運営資金の使途）：田中幹生 [化学・H1]
- ・顧問：田中幸男 [化学・29]、原邦彦 [物理・41]、時井直 [化学・44]

## 〈設立準備委員会の主な動き〉

- ・平成9年9月27日 理工学部同窓会設立準備委員会発足式
- ・平成9年11月14日 第一回理工学部同窓会設立準備委員会
- ・平成9年11月27日 庶務担当会議（第一回）
- ・平成9年12月10日 広報委員会（第一回）
- ・平成10年1月27日 組織委員会（第一回）
- ・平成10年4月1日 「設立準備号No.1」発行

## お願い

平成10年3月10日から楠葉同窓会事務局で、同窓会会員の住所変更等の調査を行っています。今後の我々理工学部同窓会活動に必要な会員名簿の原本になります。ご多忙とは存じますが、是非ご協力をお願いします。（委員長：前山道明）

発行 佐賀大学理工学部同窓会設立準備委員会  
佐賀市本庄町1番地 佐賀大学内  
TEL 0952-23-1253  
FAX 0952-25-5700

発行者 前山道明 (46・機)  
編集 荒木宏之 (51・土)  
代表者